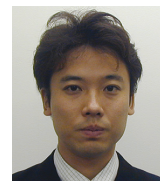


# 報告：「多自然型川づくりシンポジウム～これまでの15年間の取り組みを振り返って～」



研究第四部 主任研究員 西畑昭史

2005年10月19日、上記シンポジウムが（財）リバーフロント整備センター主催、国土交通省、スイス大使館後援のもと、東京都港区虎ノ門の発明会館において開催されました。300名の定員に対して、参加者数が307名と、盛況となりました。

平成2年から「多自然型川づくり」が始まり、本年で15年の節目を迎えました。これまで川づくりに対する様々な取り組みや先進的・先導的な研究が推進され、多くの知見・事例が蓄積されてきました。そのような中、「多自然型川づくり」の現状を検証し、新たな知見を踏まえた、「今後の多自然型川づくり」の方向性について、改めて見直そうという活動が進められています。そのような活動の一環として、スイスで近自然工法を実践したクリスチャン・ゲルディ氏や生物・生態系の学識経験者も迎え、この「多自然型川づくりシンポジウム」を開催し、多彩な観点から、お話しをいただいたものです。

## ●プログラム（敬称略）

記念講演：「スイスから見た日本の川づくりとヨーロッパの現状」

元スイス連邦チューリッヒ州建設局 クリスチャン・ゲルディ

基調講演：「多自然型川づくりが果たしてきた役割と課題」

九州大学大学院教授 島谷幸宏

事例報告①：「水際環境と多自然型川づくり」

（独）土木研究所自然共生研究センター長 萱場祐一

事例報告②：「『魚』から見た魚道」

岐阜経済大学教授 森誠一

事例報告③：「阿賀川における事例について」

阿賀川河川事務所長 矢田弘

事例報告④：「雪谷川における多自然型川づくり」

岩手県県土整備部河川課主任 馬場聡

パネルディスカッション：「今後の多自然型川づくりはどうあるべきか」

コーディネーター：島谷幸宏

パネラー：クリスチャン・ゲルディ、国土交通省河川局河川環境課長 久保田勝、国土技術政策総合研究所室長 藤田光一、森誠一、矢田弘

ゲルディ氏による記念講演では、スイスにおける近自然河川工法の取り組み例から日本の河川を取り巻く自然的・社会的条件の違いを踏まえつつ、多自然型川づくりとして展開していくための方策や基本原則等について、お話しをいただきました。



ゲルディ氏による記念講演

島谷氏による基調講演では、多自然型川づくりが果たしてきた役割として、公共事業で初めて生物に配慮した点や河川法改正につながった点等が紹介され、課題として、理論、技術、進め方の各視点から、指摘していただきました。



質問に答える島谷氏

パネルディスカッションでは、各パネラーにより、「今後の多自然型川づくりはどうあるべきか」について、活発な議論をいただきました。また、会場からの質問を積極的に受け付け、それらに対して、明快な回答をしていただきました。



パネルディスカッション